



第55期中間報告書

平成20年4月1日から平成20年9月30日まで

京セラの経営哲学

社 是

敬天愛人

〈敬天愛人〉

常に公明正大謙虚な心で仕事にあたり
天を敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心

目次

京セラの経営哲学

ごあいさつ…………… 1

当中間期の連結業績の概況…………… 2-3

事業セグメントの概要…………… 4-5

事業セグメントの状況…………… 6-9

部品事業…………… 6-7

 ファインセラミック部品関連事業… 6

 半導体部品関連事業…………… 6

 ファインセラミック応用品関連事業… 7

 電子デバイス関連事業…………… 7

機器事業…………… 8

 通信機器関連事業…………… 8

 情報機器関連事業…………… 8

その他の事業…………… 9

配当金の推移…………… 9

トピックス…………… 10-11

特集 ソーラーエネルギー事業… 12-13

連結財務諸表…………… 14-16

 連結貸借対照表…………… 14-15

 連結損益計算書…………… 16

 連結キャッシュ・フローの状況 …… 16

会社概要…………… 17

株主メモ

経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる（LIVING TOGETHER）ことをすべての
企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。



名誉会長

和夫 益 裕

心をベースに経営する

京セラを創業した頃は十分な資金もなく、立派な建物や機械もありませんでした。ただ私には、家族のように苦楽を共にし、お互い助け合える心と心で結ばれた仲間がありました。そこで私は、人の心というものをよりどころとしてこの会社を経営しようという決心をしました。それは、人の心ほどうつろいやすく頼りにならないものもなければ、ひとたび固い信頼で結ばれば、これほど強く頼りになるものもないと思ったからです。人の心をベースとして経営する。ここに京セラの原点があります。

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より京セラグループに対しまして格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月30日をもちまして終了しました第55期中間期の業績についてご報告いたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。



京セラグループは、持続的な売上拡大と高い収益率を実現し、また企業倫理の観点においても信頼される企業を目指しています。これを達成するために、当社グループの成長の原動力である、小集団毎に売上最大、経費最小を推進する「アメーバ経営」の実践に加え、新製品・新技術の開発や事業の相乗効果を追求することにより、企業成長を図っています。

第55期中間期の業績は、三洋電機株式会社から承継した携帯電話端末等の事業が加わったことやソーラーエネルギー事業などの売上が伸びたことにより、前年中間期に比べ増収となりました。しかし、欧米諸国を中心とした金融不安の影響を受け、世界的な景気減速や米ドルに対する円高の進行など事業環境の悪化により、減益で終了いたしました。

下期の当社グループを取り巻く事業環境は、さらに厳しさを増すものと予想しておりますが、グループを挙げて受注獲得と経費最小の取り組みを推進するとともに、開発、製造、営業部門の一層の強化を図り、収益性向上に努めてまいります。また、本年4月に承継した三洋電機株式会社の携帯電話端末事業等との相乗効果を追求し、より強固な通信機器関連事業の基盤確立を急ぐとともに、環境意識の高まりから世界的に市場が成長しているソーラーエネルギー事業の拡大に向けて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、京セラグループに対して、今後ともより一層のご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

中村 昇



代表取締役社長

川村 誠

当中間期の連結業績の概況

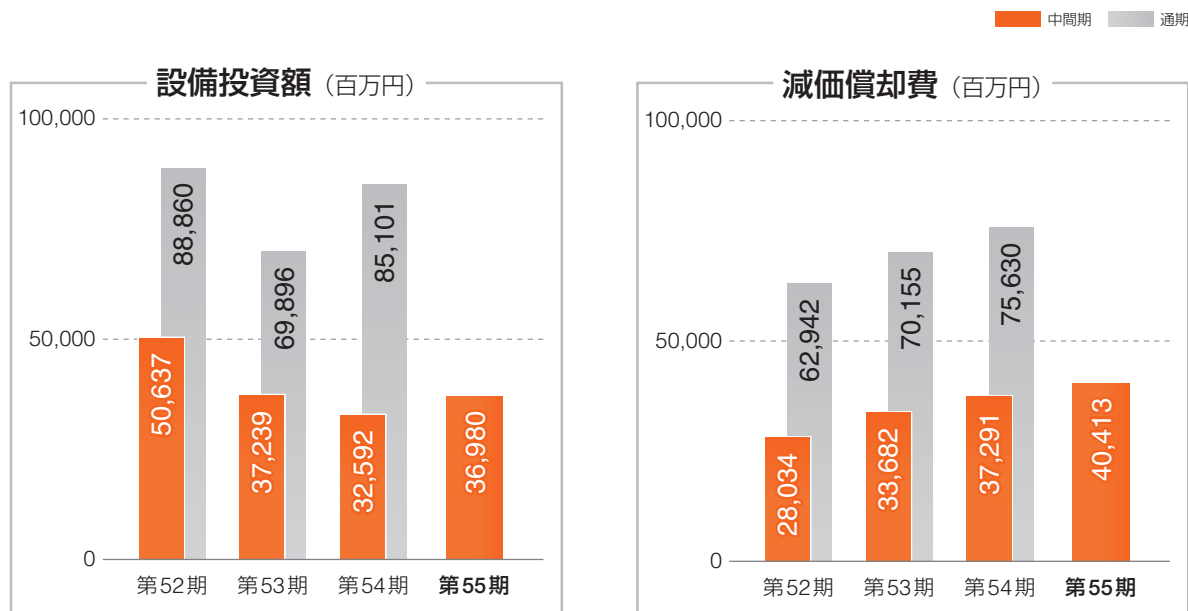
当社は、米国会計基準に準拠して連結財務諸表を作成しています。
また、本中間報告書の表示金額は百万円未満を四捨五入して記載しています。

売上高及び利益の状況

当中間期の売上高は、本年4月1日に承継した三洋電機(株)の携帯電話端末事業等の売上高が加わったことやソーラーエネルギー事業の増収などにより、前年中間期に比べ3.5%増加の6,587億17百万円となりました。営業利益は、デジタルコンシューマ機器向け電子部品の需要鈍化及び単価下落などの影響や、欧米の景気減速によりデジタル複合機などの情報機器の販売が低迷したことにより、前年中間期に比べ8.2%減少の622億29百万円となりました。税引前中間純利益は、前年中間期比9.2%減少の740億8百万円、中間純利益は同10.6%減少の452億49百万円となりました。

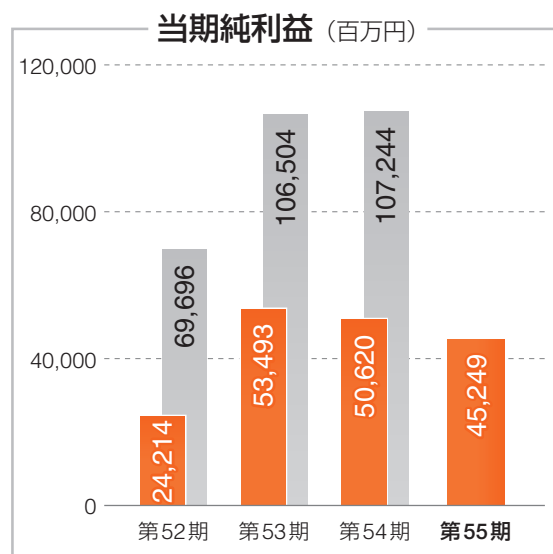
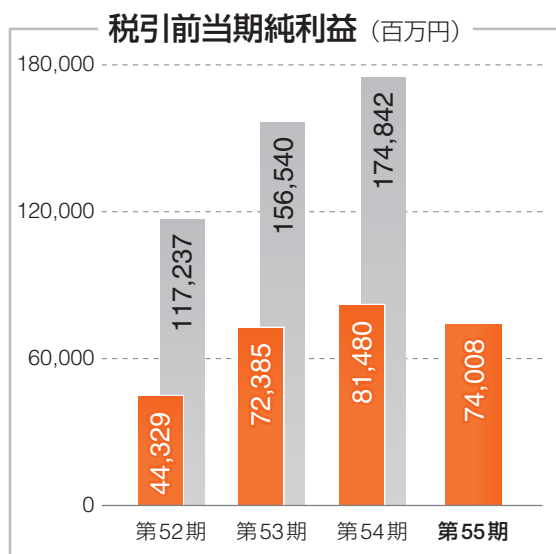
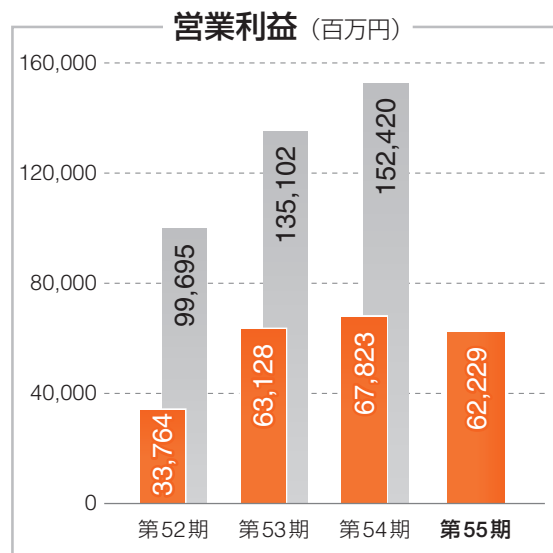
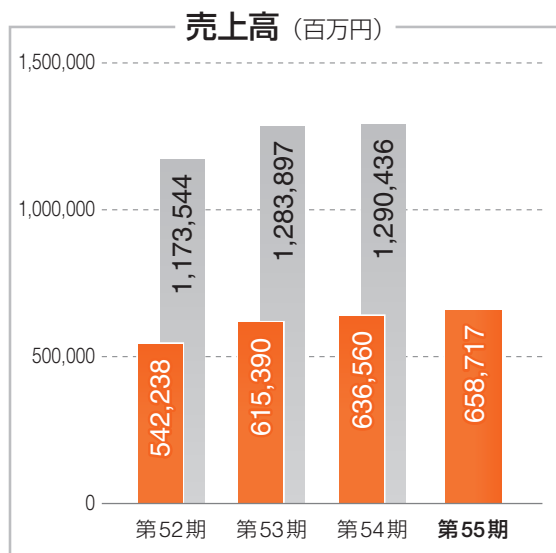
設備投資額及び減価償却費の状況

設備投資額は、主にソーラーエネルギー事業において国内外での生産能力増強を実施したこと、また、減価償却費は三洋電機(株)の携帯電話端末事業の承継を主因として、それぞれ前年中間期に比べ増加しました。



連結業績の推移

■ 中間期 ■ 通期



事業セグメントの概要

事業内容	
ファインセラミック部品関連事業	－すぐれた素材特性を活かし、あらゆる産業で信頼性の高い部品を提供－
ファインセラミックスは、高度に精製・合成された原料を高温で焼き固めたものです。プラスチックや金属などの材料と比べ剛性や耐摩耗性が高く、熱や腐食にも強いといったすぐれた特長があります。当社は、創業当初から培ったファインセラミックスの材料技術力や生産技術力により、半導体製造装置用部品や、高信頼性が要求される自動車産業向け部品、LED用サファイア基板をはじめ、あらゆる産業へ高品質なセラミック部品を提供しています。	
半導体部品関連事業	－セラミック材料と有機（プラスチック）材料で「総合パッケージサプライヤー」へ－
セラミックスと有機のそれぞれの材料技術や生産技術を活かし、半導体や電子部品に不可欠なパッケージや回路基板をコンピュータ、携帯電話端末、光通信網、自動車などの幅広い分野に供給しています。また、水晶／SAW用セラミックパッケージなど市場シェアNO.1製品を数多く生み出しています。	
ファインセラミック応用品関連事業	－ファインセラミック技術をさまざまな分野に応用展開－
ファインセラミックス部品事業で培った材料技術を応用・発展させ、さまざまな市場に製品を展開しています。1975年に開発を開始したソーラーエネルギー事業は、市場の拡大により、現在急成長しています。また、すぐれた耐摩耗性と化学的安定性をもった切削工具などを多様な製造現場に提供しています。そのほかに、人工歯根や人工関節などの医療材料事業、宝飾品や台所製品などを提供している宝飾応用商品事業があります。	
電子デバイス関連事業	－高度化するエレクトロニクス産業を多種多様なオリジナル技術でサポート－
携帯電話端末やデジタル家電の進化に伴い、電子部品のニーズは多様化かつ高度化しています。ファインセラミックスのすぐれた電気特性を活かした各種コンデンサや高周波モジュールに加え、コネクタや人工水晶を応用した水晶関連製品を提供しています。さらに、バーコードプリンタやファクシミリなどに使用されるサーマルプリントヘッドや、産業機器などの表示用に搭載される液晶パネルなどを提供しています。	
通信機器関連事業	－端末からシステムまでグローバルにワイヤレス通信機器事業を展開－
携帯電話端末事業を日本と米国市場を中心に展開しています。また、PHSシステム事業やワイヤレスでのブロードバンドネットワークを実現するiBurst™事業を世界各国に展開しています。本年4月に三洋電機㈱の携帯電話事業及びPHS基地局事業を承継し、今後、携帯電話端末事業と通信システム事業における開発・製造・販売面での相乗効果を追求し、各地域の市場ニーズに対応する端末と通信インフラ機器を提供していきます。	
情報機器関連事業	－エコシスコンセプトによるドキュメント機器事業を展開－
京セラミタ㈱は「地球にやさしく、経済的」という「エコシスコンセプト」による製品の差別化戦略に基づき、事業を展開しています。京セラ㈱が開発したアモルファスシリコンドラムなど高硬度且つ耐摩耗性にすぐれた感光体を搭載することにより、部品の耐久性を向上させ、ランニングコストを大幅に低減しています。廃棄部品の極力なくした環境負荷の少ない商品を提供しています。	
その他の事業	－さまざまなニーズにお応えした製品・サービスを提供－
京セラコミュニケーションシステム㈱が展開するICT（情報通信技術）事業や通信エンジニアリング事業、京セラケミカル㈱が提供するデジタル技術の発展に大きな原動力となる有機化学製品などの事業がこのセグメントに含まれています。	

主要製品・事業	全体に占める売上比率 (55期中間期)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 通信情報用部品 ■ 半導体製造装置用部品 ■ 自動車用部品 ■ サファイア基板 ■ 液晶製造装置用部品 ■ 一般産業機械用部品 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 水晶/SAW用セラミックパッケージ ■ CCD/CMOSイメージセンサー用セラミックパッケージ ■ LSI用セラミックパッケージ ■ 無線通信用パッケージ ■ 光通信用パッケージ・部品 ■ 有機多層パッケージ・多層基板 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 住宅用・産業用太陽光発電システム ■ 切削工具 ■ 医用・歯科用インプラント ■ ファインセラミック応用商品 ■ 太陽電池セル・モジュール ■ マイクロドリル ■ 宝飾品 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ セラミックコンデンサ、タンタルコンデンサ ■ タイミングデバイス（温度補償型水晶発振器（TCXO）、水晶振動子、セラミック発振器） ■ SAWフィルタ、高周波モジュール ■ コネクタ ■ アモルファスシリコンドラム ■ 液晶ディスプレイ ■ サーマルプリントヘッド、インクジェットプリントヘッド 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 符号分割多重接続（CDMA）方式携帯電話端末 ■ パーソナルハンディフォンシステム（PHS）関連製品〔PHS端末、PHS基地局〕 ■ ワイヤレスブロードバンドシステム〔iBurst™〕 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ エコシス・プリンタ ■ 複写機 ■ デジタル複合機 	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 通信エンジニアリング事業 ■ 情報システム・ネットワークのインテグレーション事業 ■ 経営コンサルティング事業 ■ ホテル事業 ■ データセンター事業等 ■ 電子部品材料、電気絶縁材料、成形品 	

注）「調整及び消去」（△1.9%）の項目があるため、上記売上比率の合計は 100% になりません。

事業セグメントの状況

ファインセラミック部品関連事業

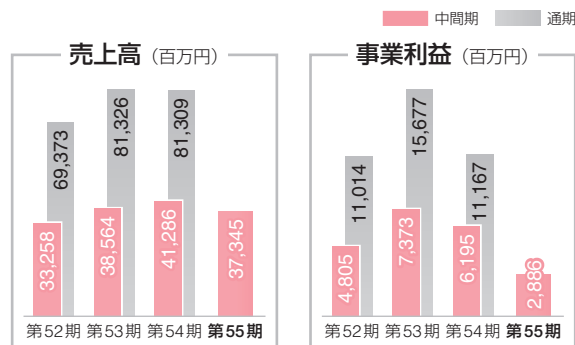
- 売上高：373億45百万円（前年中間期比 9.5%減）
- 事業利益：28億86百万円（前年中間期比53.4%減）

このセグメントには、ファインセラミック部品と自動車用部品が含まれます。

半導体市況の低迷による半導体製造装置用部品の需要減や、自動車用部品の販売が減少したため、このセグメントは前年中間期に比べ減収減益となりました。



LED用サファイア基板



半導体部品関連事業

- 売上高：822億72百万円（前年中間期比11.9%増）
- 事業利益：107億25百万円（前年中間期比28.2%増）

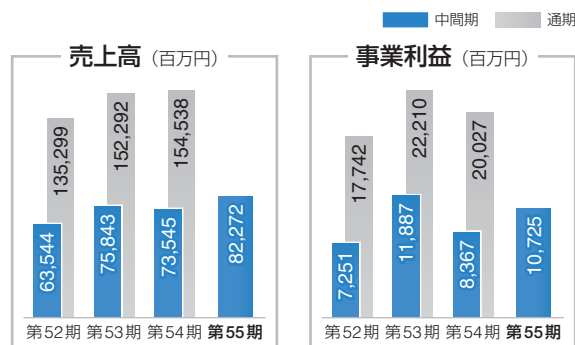
このセグメントには、セラミックパッケージと有機パッケージが含まれます。

水晶及びSAW用セラミックパッケージや、撮像素子（CCD／CMOSイメージセンサ）用のセラミックパッケージの需要が増加したことに加え、有機パッケージもフリップチップパッケージの売上が拡大しました。

この結果、前年中間期に比べ増収増益となりました。



水晶／SAW用
セラミックパッケージ



ファインセラミック応用品関連事業

■ 売 上 高：862億53百万円（前年中間期比23.7%増）

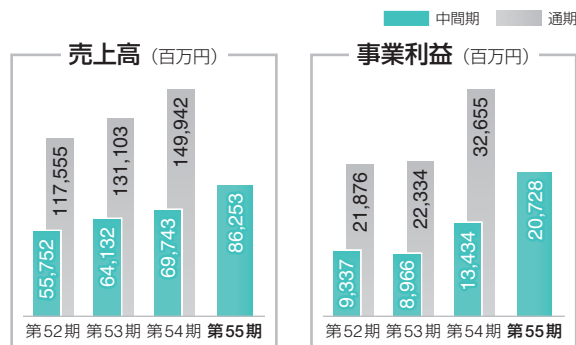
■ 事業利益：207億28百万円（前年中間期比54.3%増）

このセグメントには、太陽電池セル・モジュール、太陽光発電システム、切削工具、医療用製品、宝飾応用商品が含まれます。

欧米を中心とする海外市場でのソーラーエネルギー事業の売上が伸びたことにより、セグメント全体では前年中間期に比べ大幅な増収増益となりました。



太陽光発電システム設置例



電子デバイス関連事業

■ 売 上 高：1,380億18百万円（前年中間期比 7.1%減）

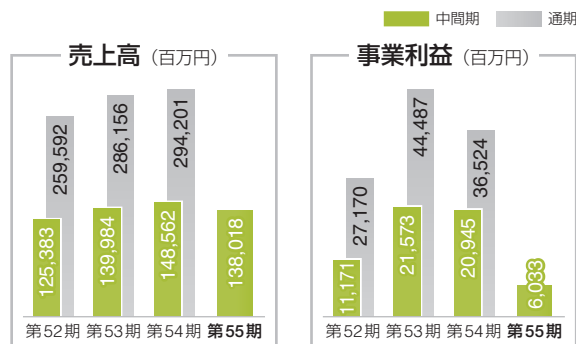
■ 事業利益： 60億33百万円（前年中間期比71.2%減）

このセグメントには、各種コンデンサや水晶関連製品、コネクタなどの電子部品と、サーマルプリントヘッドなどの薄膜部品が含まれます。

水晶関連製品の売上は伸びましたが、携帯電話端末市場向け部品需要の減少に加え、コンデンサなどの売上が減少したことや円高の影響もあり、売上高は前年中間期に比べ減少しました。事業利益は、減収の影響や製品単価の下落に加え、一部の固定資産について減損処理を実施したことにより、前年中間期に比べ減少しました。



水晶関連製品



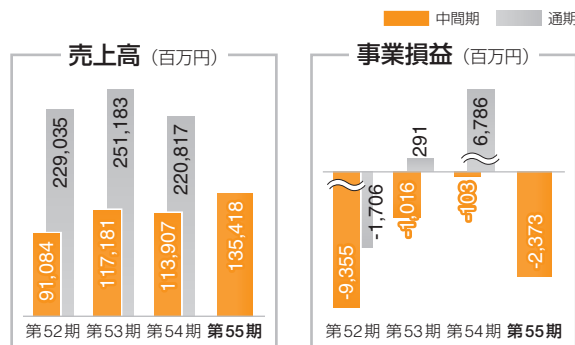
通信機器関連事業

■ **売上高**: 1,354億18百万円 (前年中間期比 18.9% 増)

■ **事業利益**: -23億73百万円 (前年中間期比 22億70百万円減)

このセグメントには、携帯電話端末とPHS端末・PHS/EVDO基地局・iBurst™関連機器が含まれます。

当中間期に国内の携帯電話端末需要が急速に鈍化したものの、本年4月に承継した三洋電機(株)の携帯電話端末等の事業が加わったことや、通信システム機器の売上が増加したことにより、売上高は前年中間期に比べ増加しました。しかし、米国を中心に携帯電話端末需要が低迷し、価格競争が激化したことにより、事業損失は、前年中間期に比べ増加しました。



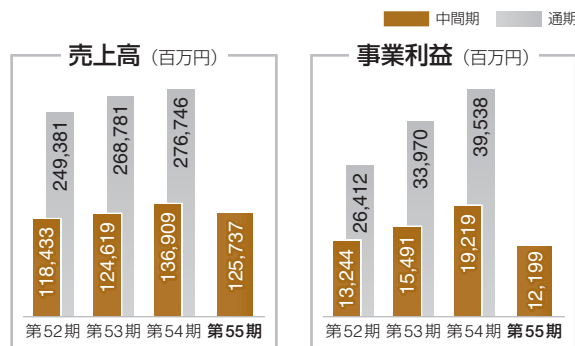
情報機器関連事業

■ **売上高**: 1,257億37百万円 (前年中間期比 8.2% 減)

■ **事業利益**: 121億99百万円 (前年中間期比 36.5% 減)

このセグメントには、エコシスブランドのプリンタやデジタル複合機が含まれます。

景気減速による企業の情報化投資が大きく減退した米国を中心に、プリンタやデジタル複合機の需要が伸び悩み、また、米ドルに対する円高の影響もあり、前年中間期に比べ減収減益となりました。



その他の事業

■ **売上高**：663億 6百万円（前年中間期比 1.6%増）

■ **事業利益**：138億 69百万円（前年中間期比249.9%増）

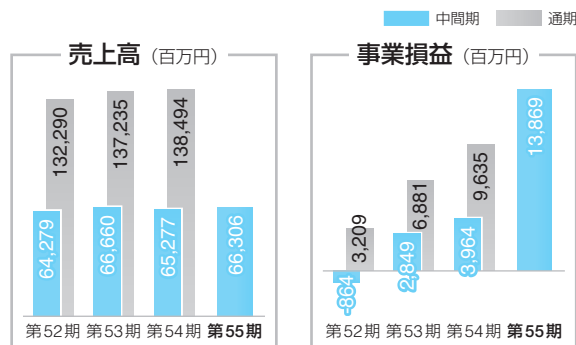
このセグメントには、各種情報通信サービス、電子部品材料などが含まれます。

京セラコミュニケーションシステム(株)の増収を主因に、このセグメントの売上高は前年中間期に比べ増加しました。

事業利益は、国内外で一部の不動産売却を行ったことにより、前年中間期に比べ増加しました。



データセンター
(京セラコミュニケーションシステム(株))

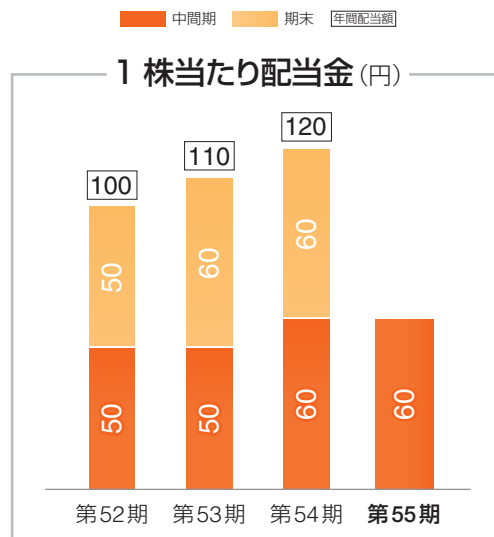


配当金の推移

当社は、将来にわたり連結業績の向上を図ることが企業価値を高め、株主の皆様のご期待に応えることになると考えております。

従って、配当につきましては連結業績との連動性を重視しており、具体的には連結配当性向20%から25%を目安とする配当方針としております。併せて、中長期の企業成長を図るために必要な投資額などを考慮し総合的な判断により、配当金額をご提案することとしております。

当中間期の配当金は、当中間期の業績及び配当方針を踏まえたうえで、前年中間期と同額の1株当たり60円とさせていただきます。



通信機器関連事業の強化

三洋電機(株)の携帯電話事業等を承継

当社は通信機器関連事業の拡大を図るため、本年4月に三洋電機(株) (以下、三洋電機) の携帯電話事業とPHS基地局事業を承継しました。三洋電機からは国内外で約1,800名の方々が当社グループに加わり、今後、承継した事業が有する国内外での強固な顧客基盤を取り込むとともに、すぐれた開発力、設計技術などを当社の経営資源と融合し、お客様により一層ご満足いただける魅力ある商品開発に取り組んでいきます。

SANYO ブランド 携帯電話端末「W64SA」を発売

本年7月に、SANYOブランドのau携帯電話「W64SA」が発売されました。「W64SA」は光の乱反射を抑え、明るい場所でも画面を見やすくしたファインパネルを搭載し、ワンタッチでメールなどを周囲から見えにくくするブラインドスクリーンや、端末を振ることでフロントパネルに5色のイルミネーションを光らせることができるシェイクイルミネーションなど、多彩な機能を搭載しています。

シェイクイルミネーション



使いやすさにこだわったワンセグケータイ「W64K」登場

本年6月に、液晶画面を回転して閉じるだけで簡単にワンセグが起動する(ワンセグ一発起動)「W64K」が発売されました。2.7インチのワイド液晶画面には透明感の美しい強化ガラスを採用しており、液晶を表にしたままでもキズがつきにくくなっています。また、押しボタンには、男性や年配の方でも押しやすい大きなフレームレスキーを配置しています。さらに胸ポケットやバッグから携帯を取り出す際、ちょうど指のかかる位置にあるインフォメーションキーを押すだけで時刻やメールなどの新着情報を確認できる機能を搭載するなど、「W64K」は使いやすさにこだわった端末です。

ワンセグ視聴開始までがスムーズ



情報機器関連事業の拡大

国内に新トナー※工場と研究開発センターが完成

プリンタやデジタル複合機などの開発、製造、販売を行っている京セラミタ(株) (以下、京セラミタ) は今後の技術開発のスピードアップを目指すため、本年3月に開発拠点となる「R&Dセンター (研究開発センター)」を京セラミタ本社敷地内に新設し、今まで5拠点で行っていた開発を当R&Dセンターに集約しました。R&Dセンターでは、高速カラー分野の商品力の強化や将来の新しい印字システムの研究開発などを推進します。

また、同じく本年3月に、新トナー生産棟が玉城工場 (三重県) に完成しました。新トナー生産棟では高画質カラートナーの開発と増産を図ることにより、今後のカラー化の要求に対応した生産体制を強化し、事業拡大を図ります。

※プリンタやデジタル複合機用のインク



R&Dセンター (大阪市)



玉城工場 新トナー生産棟 (三重県)

ピンクリボン活動 (乳がん征圧推進活動) を支援

キッチンシリーズにピンクデザイン登場

ファインセラミック製のキッチンシリーズに、新たにピンクの色調のキッチングッズ5商品が加わりました。新シリーズは、乳がん征圧の推進活動として世界的に広がっている「ピンクリボン活動」の趣旨に賛同し、この活動のシンボルカラーであるピンク色にちなんで製品を企画、展開しています。また、当社の応用商品部では「食育」促進を通じて親子のコミュニケーションを育み、幸せな「家族」づくりを応援しています。食育を促進するうえで大切な存在である「母親」を守り、そしてすべての女性を守るため、新シリーズの収益の一部を日本対がん協会の「ほほえみ基金」に寄付を行い「ピンクリボン活動」を支援しています。



ピンクリボン活動支援のセラミックキッチングッズ

ソーラーエネルギー事業の展開

—ソーラーエネルギーの利用を通じて、人々の幸せに貢献する—

現在、私たちの生活は主に化石燃料により生み出されたエネルギーで維持されています。しかし、代表的な化石燃料であり採掘可能な石油は約40年後に枯渇すると言われています。さらに、化石燃料による二酸化炭素(CO₂)の排出は地球温暖化を引き起こし、地球の生態系そのものを狂わせかねない問題となっています。

そのような問題の解決策のひとつが太陽光を活用した太陽光発電システムです。太陽光発電システムは無尽蔵な太陽光を利用して地球上のあらゆるところで発電できることから、化石燃料が不足している地域や、極地や辺境の無電化地域にも平等にエネルギーを供給することが可能です。

京セラは今から33年前、事業を通じて人類社会の進歩発展に貢献するという崇高な理念を掲げ、太陽光発電システムの研究開発を開始し、ソーラーエネルギー事業に参入しました。今回は当事業の特長や今後の展開などについてご紹介します。

■ ソーラーエネルギー事業の歴史と京セラの貢献

1973年の第一次石油ショックを機に京セラは「太陽光発電システムはやがて日本にとって必要不可欠となる」と確信し、太陽光発電システムの研究開発を開始しました。しかし、事業化を決断したものの1980年代に入っても市場は立ち上がりず、石油価格は毎年下がりました。ソーラーエネルギー事業に参入した企業の多くは相次いで撤退、世界全体がソーラーエネルギーに対する関心を失い、まさに冬の時代となりました。そのような困難な状況下においても、京セラは当初抱いた理念を忘れることなく太陽光発電システムの研究開発と普及促進に努めてきました。

1990年代に入ると地球環境問題が注目され、ようやく明るい兆しが見えるようになりました。太陽光発電システムに対して各国で助成制度が実施されるなど、今日では太陽光発電システムは世界中で注目を浴びる代替エネルギーのひとつとなりました。

事業開始 技術確立

1975年

太陽電池の研究開発をスタート

1982年

キャスト法(鋳造法)による多結晶シリコン型太陽電池の研究開発をスタート

世界に先駆け京セラが開発したキャスト法による多結晶シリコン型太陽電池は、現在、太陽電池の主流となっています。この生産方法の確立により、太陽電池のコストダウンと普及が大きく進みました。

社会貢献 普及促進

1983年以降

世界の村落電化に貢献

パキスタン、中国、タイなどに電化システムなどを寄贈。村落の電化に貢献しました。

1993年

業界初 住宅用太陽光発電システムの発売

今では一般に普及しはじめているご家庭の屋根の上に設置されている太陽電池。京セラは業界で初めて住宅用太陽光発電システムを発売しました。

世界市場 での展開

1998-1999年

2年連続で太陽電池生産量世界No.1

京セラは住宅用や公共・産業用太陽光発電システムの実用化で世界をリードしました。

2005年

太陽電池モジュール生産世界4極体制確立

世界各国での太陽電池市場の拡大に対応するため、日本、中国、メキシコ、チェコでの生産体制を構築しました。

■ 特長

①15cm角多結晶シリコン型太陽電池で世界最高クラスの変換効率

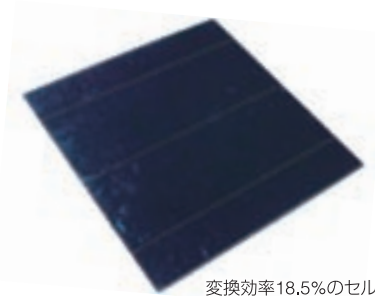
「変換効率」とは、太陽光のうち何パーセントを電気に変えることができるかという太陽電池の性能を表す数値です。京セラは15cm角の量産型の多結晶シリコン太陽電池素子（セル）において、開発レベルで世界最高クラス*の18.5%を達成しました。

変換効率が低い場合、必要な電力を得るためには、より多くの太陽電池モジュールを設置しなければならないため、コストが高くなってしまいます。変換効率の向上による太陽電池モジュールの設置枚数の削減、つまりコストダウンは、太陽光発電システムの普及に大きく貢献します。

※2008年9月時点

②長期信頼性

太陽光発電システムはご家庭で使用する電化製品と違い長く使い続けていただける製品です。多結晶シリコンを採用した京セラの太陽光発電システムは、長年世界各地のあらゆる環境の中で使用されており、20年以上も前に設置した太陽光発電システムが現在も稼働し続けています。このように京セラの太陽光発電システムのすぐれた信頼性は、実績により証明されています。



変換効率18.5%のセル

■ 太陽光発電システムの使用例



住宅用ソーラー発電システム「SAMURAI」
デザイン性と発電性能を同時に実現しています。



イオングループ36店舗* に京セラの太陽電池が設置されています。

※2008年9月時点

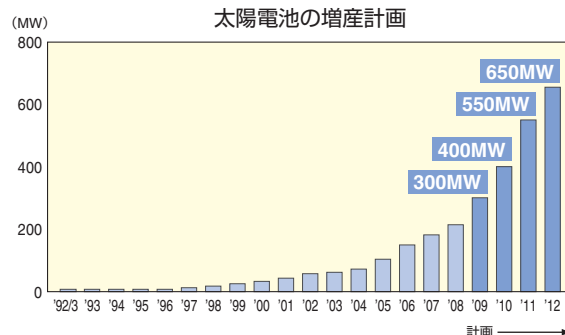


スペインの超大規模太陽光発電所
太陽電池約7万枚が5,000戸分相当の電力を供給しています。

■ 今後の展開

京セラは太陽光発電システムの普及を通じて社会に貢献するという信念を持ち、今後もソーラーエネルギー事業の拡大を図ります。前期（第54期）は年間約200MW（メガワット）の太陽電池を生産しました。2012年3月期（第58期）には前期の3倍以上となる650MWの生産を計画しています。

太陽光発電システムにより得られるクリーンなエネルギーが今後も世界中に供給されるという確かな未来の実現に向け、絶え間ない努力を続けていくことが京セラの基本姿勢であり、ソーラーエネルギー事業のリーディングカンパニーとして果たすべき役割であると考えています。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前 期	当中間期	増減金額
	平成20年3月31日現在	平成20年9月30日現在	
(資産の部)			
流動資産	1,118,225	1,099,606	△ 18,619
現金及び現金等価物	447,586	335,826	△ 111,760
短期投資	147,503	222,023	74,520
受取手形	20,375	19,333	△ 1,042
売掛金	205,522	210,031	4,509
貸倒引当金及び返品損失引当金	△ 4,352	△ 4,557	△ 205
たな卸資産	205,212	217,255	12,043
繰延税金資産	41,244	40,346	△ 898
その他流動資産	55,135	59,349	4,214
固定資産	858,521	890,709	32,188
投資及び長期貸付金	454,122	445,561	△ 8,561
関連会社・非連結子会社に対する投資及び長期貸付金	16,753	20,380	3,627
投資有価証券及びその他の投資	437,369	425,181	△ 12,188
有形固定資産	285,899	294,749	8,850
土地	57,155	59,743	2,588
建物	274,206	293,650	19,444
機械器具	718,812	737,395	18,583
建設仮勘定	17,920	7,415	△ 10,505
減価償却累計額	△ 782,194	△ 803,454	△ 21,260
営業権	39,794	59,642	19,848
無形固定資産	29,829	43,686	13,857
その他資産	48,877	47,071	△ 1,806
資産合計	1,976,746	1,990,315	13,569

現金及び現金等価物

三洋電機(株)への事業承継対価の支払及び利回りの高い預金へ預け替えを行ったことなどにより減少しました。

短期投資

現金及び現金等価物から、より利回りの高い預金へ預け替えたことなどにより増加しました。

投資有価証券及びその他の投資

株価下落により保有有価証券の時価評価額が減少したことなどにより減少しました。

営業権 / 無形固定資産

三洋電機(株)の携帯電話事業等を承継したことなどにより増加しました。

(単位:百万円)

科 目	前 期	当中間期	増減金額	
	平成20年3月31日現在	平成20年9月30日現在		
(負債の部)				
流動負債	301,682	297,137	△	4,545
短期債務	7,279	6,305	△	974
一年以内返済予定長期債務	3,432	3,284	△	148
支払手形及び買掛金	95,390	100,277		4,887
設備支払手形及び未払金	66,757	59,678	△	7,079
未払賃金及び賞与	43,207	45,713		2,506
未払法人税等	27,118	20,015	△	7,103
未払費用	32,815	35,411		2,596
その他流動負債	25,684	26,454		770
固定負債	158,897	147,774	△	11,123
長期債務	8,298	6,369	△	1,929
未払退職給付及び年金費用	15,041	14,849	△	192
繰延税金負債	118,016	109,326	△	8,690
その他固定負債	17,542	17,230	△	312
負債合計	460,579	444,911	△	15,668
(少数株主持分)				
少数株主持分	65,002	66,563		1,561
(資本の部)				
資本金	115,703	115,703		—
資本剰余金	162,864	163,082		218
利益剰余金	1,143,821	1,177,181		33,360
累積その他の包括利益	44,066	35,445	△	8,621
自己株式	△ 15,289	△ 12,570		2,719
資本合計	1,451,165	1,478,841		27,676
負債、少数株主持分 及び資本合計	1,976,746	1,990,315		13,569

未払法人税等

前期の所得に対する税金の納付が行われたため、減少しました。

繰延税金負債

保有有価証券の時価評価額の減少に伴い、これに対応する税効果負債が減少しました。

累積その他の包括利益

保有有価証券の時価評価額の減少に伴い、「未実現有価証券評価損益」が減少しました。

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前年中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	当中間期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	増減率 (%)
純売上高	636,560	658,717	3.5
売上原価	441,327	473,285	7.2
売上総利益	195,233	185,432	△ 5.0
販売費及び一般管理費	127,410	123,203	△ 3.3
営業利益	67,823	62,229	△ 8.2
その他収益・費用 (△)			
受取利息・配当金	9,742	8,271	△ 15.1
支払利息	△ 859	△ 406	—
為替換算差損益	412	△ 125	—
持分法投資損益	3,617	3,558	△ 1.6
その他 (純額)	745	481	△ 35.4
その他収益・費用計	13,657	11,779	△ 13.8
税引前中間純利益	81,480	74,008	△ 9.2
法人税等	27,164	26,141	△ 3.8
少数株主損益控除前 中間純利益	54,316	47,867	△ 11.9
少数株主損益	△ 3,696	△ 2,618	—
中間純利益	50,620	45,249	△ 10.6
1株当たり情報:			
中間純利益			
— 基本的	267円66銭	238円63銭	
— 希薄化後	267円06銭	238円52銭	
加重平均発行済株式数			
— 基本的	189,119千株	189,621千株	
— 希薄化後	189,548千株	189,706千株	

販売費及び一般管理費

当中間期の販売費及び一般管理費には不動産売却益が含まれています。

受取利息・配当金

米国の金利低下に伴い、米国子会社における運用収益が減少しました。

連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

科目	前年中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)	当中間期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,598	67,480
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 77,200	△ 167,285
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,481	△ 13,818
現金及び現金等価物に係る 換算差額	△ 1,617	1,863
現金及び現金等価物減少額	△ 7,700	△ 111,760
現金及び現金等価物期首残高	282,208	447,586
現金及び現金等価物期末残高	274,508	335,826

会社概要 (平成20年9月30日現在)

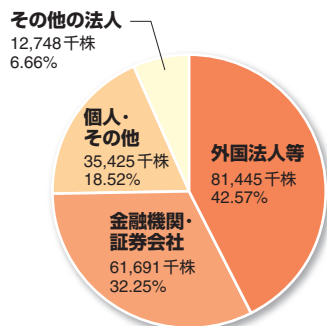
- **社 名** 京セラ株式会社
- **英 文 社 名** KYOCERA Corporation
- **本 社 所 在 地** 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地
- **設 立** 昭和34年(1959年)4月1日
- **従 業 員 数** 連結 67,626名 単独 13,942名
- **発行済株式総数** 191,309,290株
(うち自己株式数 1,523,228株)
- **株 主 数** 62,318名
- **大 株 主 (上位10名)**

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	17,661	9.31
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	8,990	4.74
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	8,922	4.70
(株)京都銀行	7,218	3.80
稲盛和夫	6,806	3.59
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	5,235	2.76
(株)三菱東京UFJ銀行	5,076	2.67
ナッツクムコ	5,070	2.67
(財)稲盛財団	4,680	2.47
モルガン ホワイトフライヤーズ エキ्यूティティリヴェイティヴ	4,617	2.43

注1) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

注2) 持株数は千株未満を四捨五入して表示しております。

●所有者別株式分布状況



●取締役及び監査役

取締役相談役	伊藤 謙 介	常勤監査役	西川 美彦
代表取締役会長	中村 昇	常勤監査役	石櫃 鴻吉
代表取締役副会長	山村 雄三	監査役	西枝 攻和
代表取締役副会長	森田 直行	監査役	田村 繁和
代表取締役社長	川村 誠	監査役	吉田 和男
取締役	山本 道久		
取締役	岸本 勲夫		
取締役	久木 壽男		
取締役	ロドニー・ランソン		
取締役	ジョン・ギルバートソン		
取締役	久芳 徹夫		
取締役	前田 辰巳		

●執行役員

執行役員社長	川村 誠	執行役員	松村 靖
執行役員専務	久芳 徹夫	執行役員	財部 行広
執行役員専務	前田 辰巳	執行役員	神野 純一
執行役員常務	作見 壽力	執行役員	高安 合明
執行役員常務	冨家 守	執行役員	落合 信元
執行役員常務	伊藤 卓	執行役員	勝木 純三
執行役員常務	野元 修	執行役員	満田 正和
執行役員常務	岡本 昭好	執行役員	梶島 登士巳
執行役員常務	鳥山 英一	執行役員	古橋 道明
執行役員上席	南 慶二郎	執行役員	今中 満
執行役員上席	山口 悟郎	執行役員	青木 昭一
執行役員上席	大田 嘉仁	執行役員	鹿野 好弘
執行役員上席	山本 康	執行役員	山下 洋一
執行役員上席	鷗 狩 武	執行役員	ロバート・ウィスター
		執行役員	ジョン・リグビー
		執行役員	高津 正紀
		執行役員	鷹尾 仁志
		執行役員	中村 由春
		執行役員	梅村 和正
		執行役員	松田 孝史
		執行役員	伊藤 雅章
		執行役員	清水 雅久
		執行役員	江 剛
		執行役員	駒 口 克己

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 株主確定の基準日 定時株主総会、期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
- 定時株主総会 6月
- 公告方法 電子公告とし、当社ホームページ (<http://www.kyocera.co.jp>) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 上場証券取引所 東京、大阪、ニューヨーク
- 証券コード 6971
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 株式会社だいこう証券ビジネス
事務取扱場所 〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号
株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部
取次所 株式会社だいこう証券ビジネス各支社

(各種お問い合わせ) 電話番号 0120-255-100
(手続用紙のご請求) 電話番号 0120-351-465
ホームページ <http://www.daiko-sb.co.jp>

株主・投資家情報ホームページのご案内

当社の株主・投資家情報ホームページ「株主・投資家の皆様へ」では、決算情報、IR資料などを掲載しております。

また、メールアドレスをご登録いただければ、IR関連資料を掲載した場合にメールにてお知らせする「Eメール配信サービス」も設けておりますのでご利用ください。

<http://www.kyocera.co.jp/ir/index.html>



京セラ株式会社

京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地 〒612-8501
Tel:075-604-3500 (大代表)

<http://www.kyocera.co.jp>



この報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。